

# 我がビジネス人生を

# 支ええた言葉

日本を代表する超一流ホテルとして、百年を超える歴史を刻んできた帝国ホテル。そのトップとして、経営基盤の充実に尽力してきた藤居寛氏は、穏やかな風貌からはうかがい知れぬ苦難の道のりを歩んできた。旧知の間柄である中條高德氏とともに、人生の支えとなった言葉を交えながら、経営のあり方、リーダーのあり方を語り合っていた。



藤居 寛——ふじい・ひろし (写真・左)

昭和5年東京都生まれ。15歳の時に列車脱線事故で両親を失い、幼いきょうだいと祖母を抱え、生活保護を受けながら働いて生活。苦学の末、一橋大学へ入学。28年同大学卒業、第一銀行(現みずほ銀行)入行。61年帝国ホテルへ移り副社長就任。平成9年社長。13年会長。20年顧問。

中條高德——なかじょう・たかのり (写真・右)

昭和2年長野県生まれ。陸軍士官学校(第60期)に学ぶ。終戦後、旧制松本高校から学習院大学へ。27年アサヒビール入社。平成2年アサヒビール飲料代表取締役会長を経て、10年よりアサヒビール名誉顧問。著書に「立志の経営」「おじいちゃん戦争のことを教えて」「おじいちゃん日本のことを教えて」「おじいちゃんの「わが闘争」」など。共著に「子々孫々に語りつぎたい日本の歴史」がある(いずれも致知出版社)。

対談

## 藤居 寛 & 中條高德

帝国ホテル顧問

アサヒビール名誉顧問